

08年6月23日市警ニュース

JSS 和訳

## 境界線のない麻薬取締り」で、麻薬売人と考えられる 150 人が逮捕された

14 および 51 分署の私服警官および、トロント麻薬班は、市内中心部の住宅地域や公園での露天麻薬取引取り締まりに関する地域の関心の高まりに対応する共同の取締りを、ブルーダイヤモンドプロジェクトおよび DEED(Drug Enforcement Everywhere Downtown の略、ほかに偉業、実行の意味もある)プロジェクトの協力を得て進めている。

おとりとなった警官が市内中心部で麻薬の購入を装い、150人の露天麻薬売人を、密売、密売のための麻薬および犯罪による利益の所有を含む428の嫌疑で逮捕した。これら150人は、総計2,276の前科を持っていた。

これまでの麻薬取締りで、麻薬の売人は警察に発覚する事を避けて、市内中心街のそここを移動していることが判明している。市内中心街地区の2管区に属する私服警官は、これら売人を逮捕し、起訴するため共同して活動している。

この共同作戦を通じ係官はおおよそ \$ 240,000 に相当する各種の麻薬および取引の利益である \$ 80,000 の現金を押収した。押収した麻薬は、クラックコカイン、粉末コカイン、マリワナ、ハッシッシ、エクスタシー(MDMA)、メタムフェタミンの結晶、ケタメイン、GHB、オキシコドン、バリウム、バイアグラ、コデインおよびロラゼパンなどである。

この共同取締りで逮捕された150人の売人のう

ち多くは、各種の法廷が定める保釈条件つきで保釈された。この作戦の一部として、この2管区において状況の追跡、保全活動が進められる。

この夏の期間を通じて TAVIS (Toronto Anti-Violence Intervention Strategy) の緊急対応チームが起用され、地域を巡邏し、保釈された人々すべての条件遵守状況を監視し、条件遵守を確実にする。またさらにほかの警官が51および14分署の係官の補助として配置され、近隣のパトロールに当たる。

51分署のHowie Page刑事によれば、「われわれは居なくなるのではない。担当している近隣社会を見捨てない。目的達成のためにさらに体制強化をしたのだ。近隣社会や公園を我が物顔に利用する人々に対するわれわれの注意の呼びかけは明白だ。中心街の近隣社会や公園に露天麻薬売人たちが出入りできなくすると約束してきた。この共同作戦はうまくいっており、今後TAVISと協力を得て、また地域社会の多くのグループと共に活動することで、まもなく麻薬密売人たちは、近隣や公園で麻薬を取引することが出来ないことを知ることになる。」

(以下略)

### JSS 説明

14 管区および 51 管区はそれぞれほぼ以下の地域を指している。

- 11 管区：南はオンタリオ湖、東はスパダイ名通り、北は Canadian Pacific 鉄道路線、西は Canadian National 鉄道路線および Jameson 通り
  - 51 管区：北はブローア通り、西はヤング通り、東は DVP、南はオンタリオ湖
- 法規制ないしは規制の実施状況、または一

般の麻薬に関する理解や認識に関して、当地は日本とは異なる状況があるが、麻薬が法規制の対象であり、犯罪の温床になっていることは同様である。また、限られた地区内で、短期間に麻薬密売の嫌疑で 150 人の嫌疑者が出るということは、多くの使用者がいることの証左でもある。

訳出した記事では警察などの取り締まり努力の一部が垣間見られる。密売人が短期間に多数検挙されていること自体も、麻薬の使用が少なくないことを示す意味で興味深い。一方逮捕の後短時間に保釈されていること、また保釈された人物が保釈条件を守っていないケースが少なくないことにも違和感がある。

警察は保釈条件違反に関する監視を強化しているようで、この記事の後、27 日に発表された TAVIS 関連の記事では、保釈中の容疑者に関する数字が発表されている。これによると現在保釈されている人数は 19,082 人（6 月 7 日現在）で、5 月中に保釈条件違反で逮捕された人数は 646 人であるという。この発表では 2006 年の状況では、違反者数が 10%居たという。

ここで提示されているのは保釈中の人数であり、罪が確定していない人物の数ではあるが、われわれが住んでいるコミュニティにはそういった人物も少なくないことをあらためて認識し、被害を避ける注意を怠らないことが必要だと感じる。